

## 会 議 録

- 1 会 議 名 第1回(仮称)子ども憲章検討懇話会
- 2 会 議 種 別 市政運営上会合
- 3 開 催 日 時 令和6年3月12日(火)  
10時00分～12時00分
- 4 開 催 場 所 北九州市役所本庁舎 3階 大集会室  
(北九州市小倉北区城内1-1)
- 5 出 席 者 氏 名 別添「出席者名簿」のとおり
- 6 次 第 (1)開会  
(2)子ども家庭局長挨拶  
(3)構成員紹介  
(4)座長選出  
(5)議事((仮称)子ども憲章について)  
(6)閉会

### 7 会 議 経 過 (発 言 内 容)

#### 【議題「(仮称)子ども憲章」について】

(資料に沿って、事務局より説明。)

- 親も子どもも周りの大人もみんな疲れている。余裕が持てる言葉や、温かくなる言葉など、子育てしている親が聞いてほんわかになれるようなものが入ったらいい。

そして、北九州市の良さは、厳しいと思う言葉でも実は奥が深かったりするようなことを肌で感じられること。そういうのを入れていきたい。

- 子ども憲章の言葉を聞いて何かパッとイメージできるようにする必要がある。ネガティブなことが多い世の中で、「子育てって楽しいよ」、「子どもって素敵だよね」ということがみんなで共有できるようなプラスのイメ

ージの言葉にしたい。

もう1つは、緩く解釈できる方がいいと思うので、「こうあるべきだ」とか、「こうしなくちゃいけないよ」という言葉や表現になってしまうときつい。多くの市民がこういうイメージを持てばいいのかなあということがじわっと伝わるようなもの。まず抽象的なことから始めて、考え方とか方向性をみんなで共有したらいいと思う。

つくった後も、使われないと意味がない。具体的にどんな言葉を持ってくるか、何条にするか、そういった具体的な議論をしないといけないかなと思うが、基本的には「子どもって面白いじゃない」、「子育てって意外と楽しいよね」と思えるような、温かい言葉が盛り込めたらいい。

- 子育ては、どうしてもほとんどが結果論である。同じようにしても同じようになるとは限らない。その中でも夫婦2人で、もちろん環境上できない方もいらっしゃるが、夫婦が笑顔で仲を深めると、おそらく多くの問題解決に繋がるというふうに考えている。

また、どうしても子どものことを考えると、母親目線になりがち。アンケートを見ても、おそらく大人はお母さんに聞いているのかなという感じの回答があったり、「ベビーカーを押していると嫌な目に合う」というのがあるが、これはあまり父親がやられることはない。ほとんど母親が嫌な思いをしている。そういった視点になっていて、そうすると結果的に寄った内容になりがち。もちろんそれは課題として大切だが、今後長く使われるためにも、男性、父親の子育ての視点というところもしっかりと盛り込んでいきたい。

- 北九州市の良さは、九州の入口で多様性が結構認められている。包摂性と寛容性の二言に尽きると思うが、他者を受け入れるとか、他人の気持ちを思いやるとか、そういうことができない社会がきているんだと今日聞いて驚いた。今後、お母さんもお父さんも、また周りの人も心が救われるような言葉が並ぶといいのかなと思う。子どもなんて騒いで普通だと思うのに、それだけゆとりがなく、疲れているんだなと思う。

- 今の数値だったり、色々なアンケートを見て、余裕がないというところはすごく感じる。子どもはどうしても親の考えていることや親の言葉をどうしても直接受け取ってしまう。なにをを考えているのかなとか、ぴりついてるなとか、それを純粹に子どもも受け取ってしまうからこそ、大人も余裕を持てるような、そして子どもにもやわらかい雰囲気や伝わるような言葉ができたらなと思う。子どもは純粹。子どもが受け取ったとしても同じよ

うに柔らかくイメージしてもらえそうな、大人も子どももどちらも同じ気持ちになれる言葉だといいと思う。

○前文のところを、子どもが笑顔になっているシーンをイメージできるような、ポエムっぽい、エモい表現を入れたりするといいのかなと思う。固くなりすぎないことと、「それってちょっと心の温度上がるよね」というような、読んだ方がちょっとテンションが上がるよねというような言葉を入れていきたい。最終的に字だけではなく、イラストや写真などもセットで成果物を作ると良い。

○地域から見ると、従来コロナの前は、小学校と協力して子どもたちに遊びの広場や昔遊び、行儀作法などをずっと教えていたため、昔の小学生とは、お互いに顔を覚えていて、大きくなって仲良くしている。しかし、この4～5年ぐらいはそういうことが地域によってはほとんどされていない。今後、学校と協力して地域で子どもに色々なものを教える、遊びを通じて教える、こういう場をもっと作っていきたい。

○子どもが小さい頃は大変で、多分そのときに正論を言われても受け入れられない。でも今だったら分かることがすごくある。むしろ大変な親に対して共感して寄り添うような形にする。それをうまく表現し、今の大変な時期の親御さんに伝えることが必要。

もう1つ、誰に対して言うのかというのはもう少し具体的に話し合いたい。もちろん広くメッセージは発信することは大事だが、今当事者である小さい子どもを育てている方がメインになるのか、もしくは、今子どもはいないが、まちに出たときにサポートできる、それを期待するような人たちに言うのか、一切の育児をしていないような方たちに対するメッセージなのか、もう少し対象をイメージできるとより良い内容になるのではないか。

○対象を決めるのもいいと思うが、このキャッチフレーズが、小学生にも中学生にもほんわか伝わるようなことも大事なのかなと思う。唱和として言えるものを広め、将来的に根付くことを目指すとすると、あまり限定すると難しいとも思う。

子どもの育ちには個人差があるということが、言葉で伝わったらいいなと思う。子育て中の方だけではなく、大人になっておじいちゃんおばあちゃんになった親たちにも「本当だよね」と言われるようなもの。「子育てってこんなやもん」「子どもってこんなやもん」「仕方がない、みんなで

育てよう」というのがあって、それが、小学生にも中学生にも伝わるようなものが盛り込まれたらいい。

沢山あってもどれかひとつ刺されれば良い。小学生も中学生も、心が疲れているけど頑張ろうとか思えたり、子育てで疲れている人にも伝わったりするといい。今、孫の世話をしているおじいちゃんおばあちゃんが多く、意外にへとへとだったりする。そこにも伝わるといい。温かくなる、それこそ「心の温度が上がる」ようなものだったら嬉しい。

○1つはきちんとしたキャッチコピーをつくること。その上で説明があって、本文があるかたち。できればコピーライターに依頼して書いてもらって1つちゃんをつくること。キャッチコピーがあった上で、ようやく前文が入って、最後にもう少し細かくできた経緯みたいなものがきちんとした場所にあるというふうにした方がおそらく広がる。ニュースになりやすい。シェアしやすい。馴染みのある言葉を使って、全部を載せなくても一言でこういったものがあるんだというふうに繋がるようなものができるといい。

○皆さんの思いは集まって良いものができると思うが、うまく表現しないと全部台無しになることもあるので、最終的には、言葉のプロに頼んだ方が本来の意味を達成することができるのではないかと思う。

○表現の仕方としては、歌の歌詞の一節みたいな表現の仕方もあるのではないか。誰に呼びかけているわけでもないが、寄り添うという感じ。皆さんそれぞれこの歌を聞くと、感動するみたいなものがあると思う。そういう歌詞みたいなものもありなのかなと思う。

○子ども憲章の方向性について意見を振り返る。大人を基本とするけれども明確に区切るというよりは、聞いた方がそれぞれの立場で思い返すような、思い浮かべるようなものにしていく。

盛り込む内容については、やわらかい言葉にしようとか、ポエムっぽいものとか、色々な言葉があったが、具体的な内容はまた次の会議以降で詰めていく。

構成については、前文、本文の二部構成を基本とし、キャッチコピーなど広めるための工夫を行う方向で検討していきたい。今後このような方向で進めていこうと思っている。